

学校図書館を活用した授業の実践例

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有しています。

教科等の日常の学習指導においては、学校図書館資料を使った授業を計画的に実施するなど、学校図書館を活用し、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を充実させることが大切です。

第5学年 総合的な学習の時間「福祉について調べて発表しよう」(16時間扱い)

授業のポイント

① 函館市中央図書館から図書の借用

② 学校司書・中央図書館司書との連携

③ 教科等の枠を超えた教科等横断的な学習

- ① 函館市中央図書館と連携し、福祉に関わる児童用図書を十分に用意する。
- ② 学級担任・中央図書館司書・学校司書が、目的に合った情報を探することができない児童に対し、調べる本や調べ方などを教えるなどの補助(レファレンス)を行う。
- ③ 国語科で学習した、効果的な発表の仕方や発表内容の構成等を、単元末の発表会において活用する。



単元の流れ

※ 学校図書館を活用した授業実践

【活動1】(5時間)
障がいの種類や特徴、障がいを抱える人たちの思いを知る

- ・本単元のねらいの確認
- ・副読本を活用したテーマ設定

【活動2】(4時間)
障がいや福祉についてテーマを決めて調査を行う

- ・図書の選び方や情報の集め方を知る。
- ・テーマに沿った情報を集め、まとめる。

【活動3】(7時間)
構成や資料を工夫しながら発表する

- ・発表準備
- ・発表会

1 単位時間の指導

本時の目標

図書資料をもとに、必要な情報を集めたり、出典を明らかにしながらまとめたりすることができる。

展開例 (8 / 16 時間)

過程	主な学習活動
導入	<p>【めあて】自分のテーマについて、図書を使って調べ、分かったことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「調べ学習シート」をもとに、自分が調べる内容について確認する。 ○ 用意してある図書の分類を知る。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のテーマに沿った図書を探す。 ○ 必要な情報が載っているページに付箋を貼る。 ○ 複数の資料から情報を集めたり、それらを比べたりする。 ○ 調べて分かったことを、「調べ学習シート」に記入する。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習を振り返り、分かったことや新たな疑問などについて発表する。

★ 注目ポイント①

函館市中央図書館や他校と連携して用意した200冊以上の児童図書を、8つのカテゴリーに分類し、児童が本(資料)を探しやすいようする。
①パラスポーツ、②介助犬、③目の障がい、点字、④耳の障がい、手話、⑤ユニバーサルデザイン、⑥バリアフリー、⑦福祉ボランティア、高齢者、⑧体の不自由な方たち、車椅子の方たち

★ 注目ポイント②

展開部分では、担任のほか、学校司書、中央図書館司書等が、必要に応じて子どもたちにレファレンスを行い、児童一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行う。